キャラクター名
九条 寅若[ｸｼﾞｮｳ ﾄﾗﾜｶ]

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	ヒーロー候補生A	カヴァー	ヒーロー候補生
オプショナル		年齢	16	性別	男
覚醒	償い	衝動	殺戮	初期侵食率	36 %
出自	権力者の血統	経験	約束	邂逅	友人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	1	0			7
感覚	0		0	2		2
精神	0		0	1		1
社会	2		0			2

HP	35
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
破壊の爪	白兵	7r+2	1	[LV+8]		
		0				
“破壁（ｹﾞｼｭﾃｯﾄ・ｳﾞｧﾝﾄ）”	白兵	10r+2		9		+侵蝕補正　1+2　コスト：4
(100↑)	白兵	11r+2		10		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
カテゴリ：ルーキー	
コネ：ヒーローマニア	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：超血統	P	N		
固定ロイス：親父　九条 龍矢	P　尊敬	N　食傷		
固定ロイス：親友　安岐 紘二	P　信頼	N　不安		
三原 ヒロシ	P　尊敬	N　恐怖		
神乃 直也	P　感服	N 劣等感		
夜明 彼方	P　友情	N 敵愾心		
手塚 彩里	P　信頼	N　脅威		

最大財産P:　4	残り財産P：　3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	-	-	
効果：戦闘移動、離脱可　1シーンLV回								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	-	-	
効果：武器作成								
完全獣化	1	6	マイナー	至近	自身	-	-	
効果：【肉体】の判定ダイス+[LV+2]個　素手以外のアイテムは装備・使用不可								
巨獣の爪牙	1	2D10	マイナー	至近	自身	-	120	
効果：そのメインプロセスではメジャーアクションを2回行える　判定は別途処理、素手による白兵攻撃のみ　1シナリオ1回								
殺戮の獣牙	5	6	マイナー	至近	自身	-	120,殺戮	
効果：ラウンド間、白兵攻撃のダメージ+[LV+2]D　HP-5　1シナリオ1回								
コンセントレイト：キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：C値-LV(下限7)								
大蛇の尾	1	2	メジャー	武器	-	〈白兵〉	-	
効果：命中で硬直付与								
神獣□	7	2	メジャー	武器	単体	〈白兵〉	80	
効果：《完全獣化》時のみ　ダメージ+[LV+2]D　メインプロセス終了時、《完全獣化》解除								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「さぁて、張り切って行きますか！皆よろしくなっ！」
夜来学園に通学しているヒーロー見習いの少年。明るく能天気な少年。脳筋。
幼馴染にして親友な少年がいるが、とある事故に巻き込まれて現在入院中。彼と交わした約束を果たすため、日夜ヒーローとして大成すべく修業中。
横文字には弱いが、学園入学時に皆がかっこいい技名を叫んでいたため、辞書と格闘しながら必死に名付けた。コードネームも自らそれっぽいものを名乗っているだけ。

九条家。現在は鳴りを潜めては来たものの、某時代より代々続く由緒正しい有名な家系らしい。その跡取り息子として生を受けたが、自由奔放な気質だったために九条家のしきたりを窮屈と感じてしまい、家で決められた習い事はすっぽかし野山を駆け回り遊び歩く幼少時代を過した。父は厳格であったが、しきたりをこのご時世には合わない古いものだと感じてもいたため、最初こそ寅若の態度を咎めはしたものの、次第に口出しはしないようになっていった。…が、親の心子知らず。何も言われなくなってしまったことを見捨てられたと勘違いしてしまい、父親に認められようとがむしゃらにいろいろなことに挑戦し無茶もしていくようになった。

親友とはそんな頃に出会った。彼は無茶をし続ける寅若が怪我をしないように付き合いつつも、やりたいことを尊重し決して止めようとはせず、いつもギリギリのところで手綱を握ってくれたいた。彼のおかげもあってか、いつも限界ギリギリのところで押しとどまっていたが、彼もいわゆるリスクジャンキーと呼ばれるタイプの人間であった。なんだかんだで無茶をしないように押しとどめてはいてくれたものの、次第にその関係は逆転していくように。気づけば、無謀なことをしたがる親友を寅若がたしなめて制止させていくようになっていた。

そんなある日のこと、とうとう親友は寅若の制止を振り切り、一人飛び出してしまった。目的は街の不良グループへの報復。偶然街で絡まれてけがを負った寅若の仇を取るためだった。必死で後を追いかけたが、彼に追いつくことはできず、到着した頃には全てが終わってしまった後だった。不良グループは彼の手で壊滅させられていたが、彼自身も相当な深手を追っており意識は朦朧としていた。急いで救急を呼び病院に搬送したおかげで一名は取り留めた。…が、彼は怪我の後遺症により立ち上がることが困難になっていた。彼はなんともない、これくらい平気だと言って笑ったが、あの時静止できていればこんなことにはならなかったという自責の念はやまなかった。後悔し後悔し続けていたところ、胸の奥で何かが湧き上がるような気がした。